

観光列車における食事の提供に関する基礎的研究
—北海道から中部地方を走行する54列車を対象として—

Basic Study on the Provision of Meals on Tourist Trains

-Case Study Focusing on 54 Trains Running from Hokkaido to the Chubu Region-

○吉原朋紀¹, 天野光一², 西山孝樹²

*Tomoki Yoshihara¹, Koichi Amano², Takaki Nishiyama²

In this study, we focused on tourist trains running from Hokkaido to the Chubu region in Japan. The authors considered how the method of providing meals was used in the 54 trains studied. As a result, it was clarified that various efforts are being made with strong ties to the areas where trains run and along the railway lines.

1. はじめに

わが国の鉄道では車窓を眺めながら飲食を楽しむ食堂車は衰退の一途を辿ってきた。しかし、最近では全国各地で新しい観光列車が次々と登場している。

そこで本稿では、「乗車すること」が目的の観光列車で、食事の提供に着目した。さらに、地域や沿線との関係性についても明らかにすることを目的とした。

2. 研究方法

本研究では、『日本観光列車ガイド 2021』^[1]に掲載された94列車のうち、北海道から中部地方を走行する54列車を対象とすることとした。そして、食事に関する記述を先述の文献および公式ホームページから抜き出して分類を行った^[2]。

3. 列車内での食事提供

対象とした54列車のうち、何かしらの食事に関する

記載があったのは30列車であった。なお、各項目を重複して集計したため、件数の合計は30件とはならない。

(1) 乗客が利用する座席の工夫

食事が提供される列車の多くは、レストランのようなダイニングスペースが用意されていた。例えば、「海里」では、2人あるいは4人掛けのテーブルを備えたレストランのような座席が該当した【Table. 1, 1 (1) a), b), c), d) (2) a), c) (3) a), b), c) (4) a)】。

その一方で、プライベート空間を求める乗客もおり、個室・半個室が用意されている列車も存在した。例えば、JR 東日本が運行する「TOHOKU EMOTION」では、グループ向けのコンパートメントが設置されており、そのスペースにランチやデザートが運ばれていた。また、グループ利用が想定されるボックスシートは、窓

Table. 1 北海道から中部地方を走行する54列車にみる食事に関する提供方法の分類結果

大項目	中項目	小項目	件数	
1. 列車内での食事提供	(1) 乗客が利用する座席の工夫	a) 窓側を向いた座席	17	48
		b) 景色を眺められる大型の窓	12	
		c) 個室・半個室	10	
		d) ダイニングスペース	9	
	(2) 乗客へ提供する食事	a) 地元料理店がプロデュースするメニュー	10	45
		b) セット販売 (ケーキとコーヒーなど)	9	
		c) お弁当の提供	8	
		d) コース料理 (給仕サービス), 懐石料理	7	
		e) テイクアウト商品の販売	6	
		f) 有名・人気料理店が提供するメニュー	5	
	(3) 飲食を提供する装置の設置・工夫	a) 列車限定で提供される食品や特産物	21	56
		b) カフェテリア・売店・バーカウンター・ワゴン販売	17	
		c) 沿線で獲れた産物の利用	16	
		d) オープンスタイルのキッチン	2	
	(4) リピーター獲得の工夫	a) 定期的なメニュー更新	7	12
		b) 運行路線による提供メニューを変更	5	
	(5) 食事中に提供されるアクティビティ	a) 地元酒造やワイナリーの商品を飲み比べ	14	24
b) 地元住民・乗務員による沿線紹介 (ガイド)		5		
c) 美しい景色が眺められる場所での停車・減速		3		
d) 楽器の生演奏		2		
2. 列車以外での食事提供	(1) 駅構内の飲食施設		3	12
	(2) 駅や沿線における食事情報の提供	a) 駅売りの売店や弁当販売	8	
b) 駅近傍や沿線の飲食店を紹介		1		

1: 日大理工・学部・まち 2: 日大理工・教員・まち

を見やすくする工夫がされていた【Table. 1, 1 (1) a), b), c), d) (2) c), d), f) (3) a), c), d) (4) a), b) (5) a), c)】.

1 人または2人で利用する乗客に向けては、窓側を向いたカウンター席が設けられた列車が多く存在しており、しなの鉄道が運行する「ろくもん」などが挙げられた【Table. 1, 1 (1) a), b), c), d) (2) a), d) (3) a), b), c) (5) a) 2 (2) a)】. さらに、美しい風景を眺められる大型の窓を設置する改造がなされた車両としては、JR 東日本の SL ばんえつ物語などが導入されていた【Table. 1, 1 (1) a), b) (3) b)】.

(2) 乗客へ提供する食事

地元料理店あるいは有名店が企画する料理の提供がみられた. 例えば、JR 東日本運行の「フルーティアふくしま」では、列車が走行する沿線に所在する店舗が提供するスイーツが楽しめる工夫があった【Table. 1, 1 (1) a) (2) a), b) (3) a), b) (4) a), b) (5) a)】.

また、有名・人気料理店が提供するメニューの提供も5件が該当した. 例えば、えちごトキめき鉄道が運行する「えちごトキめきリゾート雪月花」では、ミシュラン二つ星シェフが振る舞うフランス料理が味わえる列車も存在した【Table. 1, 1 (1) a), b), d) (2) a), d), f) (3) a), b), c) (4) b) (5) a)】.

そのほかには、ケーキとコーヒーなどのセット販売も行われ、「べるもんた」の沿線4市のおつまみと地酒1杯が付くほろ酔いセットが挙げられる【Table. 1, 1 (1) a), b) (2) b) (3) c) (5) a)】.

(3) 飲食を提供する装置の設置・工夫

54件中16件と多くの列車では、地元で獲れた農産物や魚介類を用いた食事を提供していた. 例えば、JR 東日本が運行する「海里」では、地元新潟県や庄内地方の豊かな海と里の幸が、車内ダイニングで味わえるようになっていた【Table. 1, 1 (3) c) 該当項目のみ記載】.

乗客へ提供する食事を調理する様子が見学できる工夫がされていた. 例えば、JR 西日本が運行する「べるもんた」では、寿司職人が乗車し、富山湾で取れた新鮮な魚介を用いた寿司を握るカウンターが設置されていた【Table. 1, 1 (3) c), d) 該当項目のみ記載】.

(4) リピーター獲得の工夫

いすみ鉄道が運行する「レストラン・キハ」では、定期的なメニューの更新やプロデュースを行うシェフが定期的に変更されていた【Table. 1, 1 (1) c) (2) d), e) (3) a), c) (4) a) (5) a)】.

また、JR 東日本運行の「フルーティアふくしま」では、運行路線により提供するメニューを変えていた【Table. 1, 1 (4) b) 該当項目のみ記載】. 同一の列車を

何度も楽しめる工夫が施されていた.

(5) 食事中に提供されるアクティビティ

地元ワイナリーで作られたワインや地元の酒蔵で醸造された日本酒を飲み比べできる一区画が設置されていた. 例えば、長野電鉄が運行する「北信濃ワインバレー列車」では、70分間の乗車中に赤・白ワインが飲み放題で楽しめる【Table. 1, 1 (1) b), d) (2) a), c), f) (3) a), b), c) (4) b) (5) a), c)】.

駅ではなく、美しい景色が眺められる場所で列車が一時停止するサービスも存在した. 例えば、先述の長野電鉄が運行する「北信濃ワインバレー列車」では、北信濃の山々や千曲川の景色が車窓にひろがるビュースポットで一時停止するサービスが行われていた【Table. 1, 1 (5) c) 該当項目のみ記載】.

数は少ないながらも、地元をよく知る地域住民や乗務員が観光列車に乗り込み、食事中に提供するアクティビティが存在した. 例えば、JR 西日本運行の「花嫁のれん」では、名旅館監修の和装アテンダントが案内に当たるものであった【Table. 1, 1 (1) c), d) (2) a), b), f) (3) a), b) (5) a), b)】.

4. 列車以外での食事提供

観光列車内ではなく、駅構内の設備等や沿線の食事に関する情報が紹介されていた.

(1) 駅構内の飲食施設

運行される観光列車内ではなく、駅構内の施設が紹介されていた. 例えば、「トロッコわたらせ渓谷号」では、食事の提供は行われていないものの、途中駅で使用されなくなった鉄道車両を利用したレストランが紹介され、弁当販売も実施していることにも触れられていた【Table. 1, 1 (2) c) (3) a), c) 2 (1) (2) a)】.

(2) 駅や沿線における食事情報のみ提供

観光列車が走行する沿線で購入可能な弁当が紹介されていた. 例えば、「リゾートしらかみ」では、乗車前に弘前駅で販売されている駅弁を購入することが可能という情報のみ紹介されていた【Table. 1, 1 (1) b), c) (2) e) (3) a), b), c) (5) b), d) 2 (2) a)】.

5. まとめ

本稿では、観光列車における食事の提供方法について考察を行ってきた. 地域で獲れた食材の活用やライブキッチンなど、乗客へ「見せる」工夫がなされていた. また、沿線の風景を楽しむため、車両自体の改造に加えて、数は少ないながらも沿線住民が関与するアクティビティも車内に用意されていたことがわかった.

参考文献

- [1] 谷崎竜：日本観光列車ガイド 2021, 176p, イカロス出版, 2020.
[2] 池口英司：グルメ列車の旅, 155p, イカロス出版, 2020.